

## 市内の公共図書館・大学図書館が相互協力協定を結びました

山口県立山口図書館、山口大学図書館、山口県立大学附属図書館3館の相互協力協定調印式が7月31日、県立山口図書館で行われました。

これまでも当館と2館のあいだでは、資料の相互貸借、文献複写、参考業務の協力は行われていましたが、協定を結んだことでより密接・迅速な協力が可能になります。従来、他館からの資料の取り寄せは「郵送」が主な手段でしたが、3館を結ぶ協力車の運行も検討されています。つまり、資料・情報が動いて利用者の手元に届く体制を実現するという事です。

次に参考業務(レファレンスサービス)の提携です。これは利用者からの様々な質問に対して、問題解決の参考になる資料・情報を提供するサービスで、近年、公共図書館だけでなく大学図書館も力を注いでいるサービスです。最近ではツールとしてレファレンス・データベースの整備を行っている図書館も増えています。これを協同で整備しようという案も出ており、まず山口地域の情報に絞って蓄積することが検討されています。

そのほか、各館の資料展示などへの協力、資料の提供や研修会・講座の共同開催なども考えられています。また近年、各館とも非正規職員の割合が増えており、加えてサービスの品質を向上させることも求められています。研修による人材育成や人事交流による図書館職員の資質向上に役立つ場としても活用できそうです。

当館は、他の2館と比べ小規模な図書館ですが、充実した福祉・看護関係の資料を所蔵しています。寺内文庫も特色ある資料を所蔵しており、本年6月初旬から7月末まで、山口県立萩美術館・浦上記念館で開催された「雅/俗 浮世絵に見る風雅と風俗」には本学教員の協力により、文庫所蔵の「絵本漢楚軍談」(阿部欒斎訳 葛飾北斎画)が展覧されました。(2ページ関連寄稿参照)これら特色のある資料提供を含め、今後、協定の趣旨を活かすことのできる協力を考えていきたいと思えます。

本年度は協定書の調印を受け、協力車の試験運行、研修への相互参加と協力、「山口県図書館振興大会」への協力が決まっています。

事業の具体化に多少時間がかかるものもありますが、本学のみなさんも今後の図書館サービス向上にご期待ください。(町田)



### 目 次

|                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| 市内の公共図書館・大学図書館が相互協力協定を結びました           | 1 |
| (寄稿) 桜園寺内文庫収蔵資料から - 『補訂刻正 絵本漢楚軍談』について | 2 |
| (寄稿) 図書館は私の情報源                        | 3 |
| 洋雑誌のOnline JournalがWebサイトから閲覧できます     | 3 |
| 真夏の書架整理と図書の移動                         | 4 |
| 新着図書紹介 - 大学院博士課程特別集書から                | 4 |
| あとがき                                  | 4 |

## (寄稿) 桜圃寺内文庫収蔵資料から - 『補訂刻正 絵本漢楚軍談』について

国際文化学部 講師 木越 俊介

『補訂刻正 絵本漢楚軍談』初輯、二輯 TW913.56-E35  
 阿部櫟(れき)斎(訳)・葛飾北斎(画)  
 初輯・天保14年(1843)丁字屋平吉板  
 二輯・弘化2年(1845)山城屋佐兵衛板



「漢楚軍談」という書名から察しがつく人もいますが、本書の題材はいわゆる「項羽と劉邦」として馴染み深い、紀元前200年前後の中国史に基づく二人の英雄を軸に描いた軍記です。彼らを中心として張良・韓信・樊噲・蕭何・鐘離昧・范增・項伯等が活躍し、ついに漢が天下統一を果たす、というのが主な筋ですが、「鴻門の会」「四面楚歌」などの名場面などとともに知られ、教科書で習ったという人も多いのではないのでしょうか。

江戸時代にもこうした中国の歴史ものは人気があり、元禄年間(1688-1704)頃から「通俗」と題した本が続々と刊行されました。「通俗物」という一つのジャンルを形成したぐらいですから、よく読まれていたようです。ちなみに「通俗」というのは、ここではおおよそ「中国白話小説\*(1)の翻訳・翻案」ほどの意味合いとご理解ください。

ところで、こんにちの日本でも「三国志」などが小説やマンガを通して広く読まれているように、当初「翻訳書」として輸入されたものが、徐々にエンターテイメント色を強めた様式に書き改められるのは江戸時代でも変わらなかったようです。本書『絵本漢楚軍談』は、従来の「通俗物」が逐語訳を基本とする翻訳書であったのに対し、当時流行していた読本(よみほん)風体裁に仕立てたものです。「読本」とは、曲亭馬琴作『南総里見八犬伝』などの江戸時代19世紀に書かれた長編伝奇口マン小説です。「絵本」と銘打ってはいますが現代の「絵本」とは少々意味が異なり、「絵入本」ぐらいのニュアンスで捉えると適切かと思います。「読本風」というのをより具体的に説明しますと、文体を和漢混淆体にし、口絵(巻一冒頭部分)や挿絵を付したことがあげられます。北斎は読本の挿絵も多く手がけていますので、こうした仕事はお手のものだったでしょうし、人気絵師・北斎が描いたという点に新たな商品的魅力・価値があったわけです。

もっとも、本書も広い意味では翻訳とっていいのですが、その本文を誰が担当したのかははっきりとは記されておらず、かつては序文を書いた為永春水\*(2)が作者とみなされたこともありました。そうした中で近年、徳田武氏による研究\*(3)によって、本草学者・医者である阿部櫟(れき)斎(1805~1870)の手によることが判明しました。本書の語彙・表記は確かに読本を意識したものとなっていますが、先行する通俗物の単なる焼き直しでなく、『史記評林』\*(4)をも参照するなど相当な語学力を有していたことがうかがえます。櫟斎は英語にも堪能であったそうです。

最後に少し専門的なことを付け加えますと、本書は半紙本というサイズで口絵を有し、写真でもお分かりのように淡いモノトーンが付されています(これは「薄墨」といい、ややコストと手間のかかる手法です)。惜しむらくは、初輯の巻4から7が欠巻であることですが、保存状態はよく北斎の絵の迫力がよく伝わってくる興味深い本です。



(繪本漢楚軍談 二編卷一 口ノ三ウ・口ノ四オ より)

- (1) 白話小説...白話とは中国の口語のこと。例えば『西遊記』『水滸伝』などは当初口づたえで語られていたが、やがて白話小説としてまとめられた。
- (2) 為永春水(1790~1843)...江戸時代後期の戯作者。人情本や読本などを手がけ、前者の代表作に『春色梅児誉美(うめごよみ)』がある。越前屋長次郎という名で本屋業も営んだ。
- (3) 「二つの『絵本漢楚軍談』と『西漢演義』」(『江戸漢学の世界』ペリかん社、1990)
- (4) 『史記評林』...『史記』の注釈書。明代の1576年、呉興の凌稚隆編。評論を多く含む点に特色がある。

## (寄稿) 図書館は私の情報源

生活科学部 3年 平井裕子

学生生活の中で欠かせないのがレポート作成ではないでしょうか。私が所属している生活科学部のレポートは実験についての考察が主となるため、やはり手持ちの教科書だけでは考察がうまくまとまりません。そんな時必ず足を運ぶのが大学の図書館です。

大学の図書館には他の図書館にはおいていないような各学部の専門的な本がそろっているし、データベースからさまざまな論文も検索することができます。自分のパソコンをインターネットにつないでいない私にとって図書館は多くの情報を得ることができる情報源となっています。

また、図書館は情報を収集するだけの場所ではなく学習の場でもあります。テスト期間中、自宅学習ではやはり甘えが出てしまいなかなか集中できない面がありますが、図書館を訪れると周りの皆ががんばっている姿が自然と目に入るため自分もがんばろうという気持ちになります。勉強に疲れたときでも、図書館にはさまざまなジャンルの本や雑誌が置かれているため自分の好きな本を読んで息抜きをすることもできます。ゆっくりと図書館内を回り、今までに出会ったことのない新しい本に出会うことで自分が持ち合わせていなかった分野への知識も広げることができ、いろいろな事に興味を持つことができます。

図書館という足を運びづらいというイメージを持つ方も多いと思いますが、大学の図書館は係りの方もとても親切で親しみやすい場所です。

今まで述べたことは個人的な経験であり、図書館の利用価値は人によってさまざまだと思うのでぜひ図書館に足を運んでみてください。

## 洋雑誌のOnline JournalがWebサイトから閲覧できます

現在、本学で継続購入している洋雑誌のうち、オンライン購読もできるものを紀伊國屋書店が提供するポータルサイトから閲覧できるようになりました。学内LANに接続されたパソコンであれば、図書館に来館することなくどこからでも閲覧できます。アドレスは次のとおりです。

<http://jweb.kinokuniya.co.jp/user/controls.php?view=userojlinker>

ALL をクリック



OJヘリンク



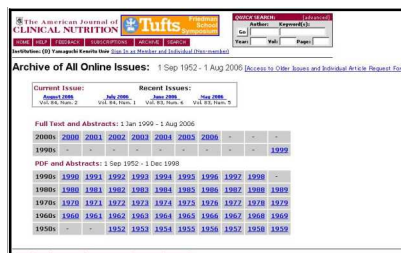
A から順に  
雑誌名が表示される  
例では American  
Journal of Clinical  
Nutrition を選択

### 閲覧方法

ブラウザ のところでタイトルの ALL をクリックすると閲覧可能な雑誌のリストが表示されます。注記 は本文閲覧できる年を示しています。

目的の雑誌の下にある OJヘリンク をクリックします。オンライン購読できる巻号が表示されます。(雑誌によって料金やlogin名入力の表示ができるものは閲覧できません。)

閲覧できる年のリストが表示される



各雑誌によって表示画面は異なる

### 注意すること

- ・短時間に大量の論文をダウンロードしないでください。著作権法により禁止されています。
- ・ダウンロードした論文を複製・配布したり、研究・学習以外の目的で使用したりしないでください。
- ・閲覧できる雑誌は、出版社のサービス停止および今後本学が購入中止した場合などには閲覧できなくなるものもあるのでご了承ください。(窪田)



## 真夏の書架整理と図書の移動

8月14日から17日まで、今年度前期の蔵書点検を行いました。商店などで在庫点検を行う、いわゆる棚卸しと考えてください。実施前の計画では書庫の図書を点検する予定でしたが、何しろ今年の猛暑です。急遽予定を変更、空調の入らない書庫は、3月末に蔵書点検を行うことにし、増える図書で書架が一杯になっている本館閲覧室の書架整理と図書の移動を行うことにしました。

閲覧室の書架には約4万冊の図書が並べられていて、場所によっては一番上の棚から一番下の棚まで7段がすべて埋まっているところもあります。利用者みなさんが図書を取り出す時や、職員が返却された図書を書架に返す時に大変不便な状況になっていました。最近の新しい図書館では書架を6段にして、しかも一番下の棚板を奥に向かって低く傾斜させているものを設置しているところがあります。バリアフリーを考えて設計された書架と言えます。しかし、わが図書館ではそうもいきません。美術関係の書棚が窮屈になっていたの、寝かせていた図書がきちんと背を見せるように、7段の棚を6段に調整するくらいが精一杯でした。

整理期間初日に、空いた棚数と調整する空間を計算し、新たに並べられる分野の分類記号を各棚に表示し、次に職員全員が二人一組で図書の整理を行いました。書架と書架の間が狭いためブックトラックの移動に手間取るなど、なかなか作業はかどりませんでした。なんとか3日間で移動を終えることができました。最終日には書架の表示の取り替え、分類記号の表示などを行い、4日間の点検作業のすべてが終了しました。今回の作業で、開架閲覧室の各書架に多少の余裕が出来、利用もしやすくなりましたが、反面その余裕の少なさに今後への不安も覚えるところです。



図書館の仕事はカウンター風景からだけでは分かりません。バックヤードでの仕事にも大変大切なものがあり、なかなか利用者からは見えない部分です。これらの一環として、蔵書点検関連の作業も含まれます。

このように外からは見えない仕事を含めて総合的に図書館サービスは成り立っており、本学の教育、研究支援につながっていることをご紹介します。(町田)

## 新着図書紹介 - 大学院博士課程特別集書から・・・ 社会福祉学部 教授 高野和良先生選書

- ・「The encyclopedia of aging : a comprehensive resource in gerontology and geriatrics」 Springer R367.7 ♯c ♯1.2
- ・「Encyclopedia of bioethics」 Macmillan Reference USA R490.15 ♯84 ♯1 ~ 5
- ・「The SAGE handbook of qualitative research」 Sage Publications 307 ♯61
- ・「Demography : analysis and synthesis」 Elsevier, Academic Press 358.01 ♯25 ♯1 ~ 4
- ・「Growing older in Europe」 Open University 367.7 ♯36
- ・「A more equal society? : new Labour, poverty, inequality and exclusion」 Policy Press 364.1 ♯58
- ・「Ageing and the transition to retirement:a comparative analysis of European welfare states」 Ashgate 366.23 ♯39

## あとがき

この暑さは地球温暖化のきざし？だれもがそう感じた酷暑の夏でした。

木々が色づき、秋の気配が近づいた10月、キャンパスに学生諸君が、図書館に燈火親しむ時がもどってきました。この時のために用意した図書館報秋季号をお届けします。

今回の話題は、県立図書館と2大学図書館の連携協力でサービス向上のニュース、新進気鋭の木越俊介先生に寄稿いただいた寺内文庫貴重資料の紹介記事、図書館が大好きな3年生平井裕子さんのメッセージ、オンラインジャーナルの利用案内、休館中に図書館職員が汗をながした書架整理の舞台裏、新着図書紹介。一読いただけたら仕合わせです。

次号は1月、冬季号です。ご期待ください。(市村)